

第42回日本臨床運動療法学会学術集会演者 ご寄稿

特別講演



真田 樹義
立命館大学
スポーツ科学部

サルコペニア・フレイルと運動療法

我々はこれまで、「健康づくりのための運動処方における科学的エビデンスの構築」をテーマとして研究活動を行ってきました。特に、生活習慣病発症リスクと有酸素性能力、身体活動量、筋力トレーニング、柔軟性、体組成との関係や一般市民の健康・体力・体組成評価、簡易評価などを開発してきました。例えば、全死亡リスクに関連するとされる最大酸素摂取量を運動せずに超音波法を用いて評価する方法や、最大酸素摂取量の年齢別基準値を保つために必要な筋量の算出、超音波法を活用した筋量の推定、DXA法による四肢筋量を用いた基礎代謝量の推定など、運動・栄養指導の現場に応用できる研究報告を行ってきました。

近年では、DXA法による四肢筋量を用いて日本人のサルコペニア参照値を報告するとともに、その参照値によって分類したサルコペニアと、生活習慣病発症リスクとの関係について検討しました。その結果、日本人のサルコペニア該当者は、BMIが低値を示すにもかかわらず、血中グルコヘモグロビン濃度および動脈硬化指標である脈波速度が、健常者よりも有意に高いことを明らかにしました。この研究成果は、Asian Working Group for Sarcopenia (AWGS) によるサルコペニアの診断基準を

含む国際誌に250件以上引用されています。

サルコペニア肥満に関する研究活動として我々は、ハワイ大学医学部老年学科との共同研究による日系米国人男性の長期追跡調査から、サルコペニア肥満と総死亡リスクとの関連について検討しました。その結果、骨格筋指数と腹囲を診断基準としたサルコペニア肥満は、総死亡リスクを有意に増大させたことを報告しました。また超音波Bモード法という簡易で安全な装置を用いて、肥満者の全身各部位の筋組織厚を評価した結果、腹部の筋サイズのみメタボリックシンドロームリスクスコアとの間に有意な関連を認め、さらに腹部の筋サイズと腹囲で評価したサルコペニア肥満は、動脈硬化や糖尿病発症リスクや骨密度と有意に関連することを突き止めました。

最近では、京都府八幡市や愛知県東海市、大分県宇佐市における高齢者コホートを使用し、ロコモ高齢者における歩行介入が身体活動量および身体機能に及ぼす効果、身体活動量と抑うつとの関連、抑うつとフレイルとの関連、などの調査も行っています。

本講演では、これまでの研究成果をまとめ、今後の研究への展望について解説します。

参加登録

受付期間は
2023年8月31日 木 まで

事前参加登録を開始しました。
参加される方は、期間内に事前
参加登録をお願いします。
お支払いが完了されている方
に、9月下旬をめどに参加証、
抄録集をお送りいたします。



登録はWebから

※演題登録は最終ページへ

教育講演

※シンポジウム、パネルディスカッション等は[Web](#)をご覧ください
次号で、シンポジウム等の見どころをお知らせする予定です



勝川 史憲

慶応義塾大学
スポーツ医学研究センター

肥満・代謝疾患とフレイル

中年期（肥満・代謝疾患、エネルギー制限、有酸素運動中心）、高齢期（低体重・フレイル、エネルギー・タンパク質摂取、レジスタンス運動中心）という一般的な理解とは異なる角度から両者をとらえ、予防を考えます。



石井 好二郎

同志社大学
スポーツ健康科学部

ライフコースから考える子供
と女性の運動と栄養

女性はライフコースの中で様々な身体的、生理的、および心理的变化を経験します。「若年女性のヤセ」「少子化の加速ならびに低出生体重児の増加」「超高齢社会における女性の要介護リスク」等を中心に講演します。



沖田 孝一

北翔大学大学院
生涯スポーツ学研究科

心不全と運動療法：
Basis and Vision

心不全パンデミック時代、過去には「安静・無理しない」が原則であった心不全になぜ運動療法なのか？「心不全は心臓だけの病気ではない」に至る研究の歴史と概念、その先にある可能性についてご紹介します。



黒瀬 聖司

関西医科大学
健康科学センター

運動療法とマイオカイン

マイオカインは骨格筋から分泌される生理活性物質の総称です。骨格筋は常時又は筋収縮によってマイオカインを分泌し、様々な臓器に関与しています。講演では、骨格筋制御に関与するマイオスタチンとフォリスタチンに焦点を当てお話しします。



牧田 茂

川口きゅうぼろ
リハビリテーション病院

高齢者と
心臓リハビリテーション

高齢化社会の医療で問題になるのは、複合疾患とフレイルならびに認知症による日常生活の自立度の低下に伴う介護負担の増加でしょう。心リハは今後クローズアップされることは間違いありません。急性期のみならず回復期・維持期を含めた地域での包括的心リハの実践が求められます。



美津島 隆

獨協医科大学
リハビリテーション科

高齢者の嚥下障害と
サルコペニア

嚥下筋は呼吸に伴い、常時活動しているため筋萎縮を起こしにくいと考えられていますが、高齢者において嚥下筋の筋力増強訓練は嚥下障害の改善に有効な手段です。高齢者の嚥下障害とサルコペニアとの関わりについてお話しします。

EIM Japan、第31回日本医学会総会博覧会出展報告

EIM Japanは、第31回日本医学会総会博覧会（会期：2023年4月15日（土）～23日（日）会場：東京都丸の内・有楽町エリア）で、「運動」と「食事」をテーマとしたセルフケアスタジオに出展協力しました。



公開中 5月末まで

オンライン博覧会には引き続き参加可能です。



詳細はWebから



EIM Japan理事長 木村穰先生（関西医科大学 健康科学センター）によるデモンストレーションでは、AI技術を用いた脳・身体機能自動評価で、おすすめの運動が提示される体験を、多くの来場者の方にして頂き、盛況のうちに終わりました。

EIM Japanは、医療機関主導による運動療法アルゴリズムEIM Solutionを提唱し、医療と運動指導者の連携における指針の発信、地域の運動コミュニティの支援を、引き続き行動目標として努めます。

Information①

関西医科大学健康科学センター 地域医療連携会

5月のJAETP Web CCは、当事務局の関西医科大学附属病院健康科学センター地域医療連携会開催に合わせて、医療連携カンファレンスとさせていただきます。

第1部 健康科学センター地域連携報告会 症例報告

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後リバウンドをきたし、再スリーブ状胃切除術を施行した一例

関西医科大学附属病院健康科学センター 管理栄養士 藤岡 友美

フィットネスで運動開始2ヶ月でACS発症、発症後減量するも塩分コントロールに難渋した一例

関西医科大学滝井総合医療センター 健康運動指導士 西江 萌希

心リハサルコペニア介入にて食事量増量、骨格筋SMIは改善するも糖尿病悪化した一例

関西医科大学附属病院健康科学センター 健康運動指導士 河津 俊宏

くずは駅中健康・健診センターの機能と連携モデルの紹介

関西医科大学くずは駅中健康・健診センター 健康運動指導士 山田 勇太

第2部 特別講演

新しい予防医療 関西医科大学の挑戦

関西医科大学くずは駅中健康・健診センター長 浦上 昌也 先生

参加登録する



5.20土

15:00~17:30

関西医科大学学舎第一講義室
ハイブリッド開催

※オンデマンド配信はありません

Information②

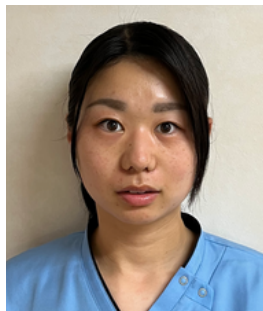
JAETP Web CC (ケースカンファレンス)

初回登録はこちら



第6回は下記の通り開催されました。

参加は初回のみ右記Webから登録が必要です。参加費は無料です。学会員は、オンデマンド視聴も可能です。なお発表をご希望の方は事務局へご連絡ください。



第6回 2023年4月7日(金) 18:30~

メディカルフィットネスSORAの現状と症例検討(2例)

畑 寿来 先生(健康運動指導士)、中村 洋貴 先生(理学療法士)
社会医療法人高清会 高井病院 メディカルフィットネスSORA

施設紹介

奈良県天理市にある375床の総合病院で、一般病棟・回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟を有しており、現在、外来心臓リハビリテーションでは心大血管疾患患者を中心に、メディカルフィットネスでは、生活習慣病患者へリハビリテーション終了患者を中心に介入している。講演では、2021年医療法42条施設メディカルフィットネスSORAを開設してからの会員の利用状況と内訳の現状、さらに、会員数延伸に向けた取り組みとして、地域の方にもご利用頂けるよう天理市と連携している症例を報告。



症例

1. -50代女性脳出血後の運動療法-当院に救急搬送され、退院後主治医勧めのもとメディカルフィットネスSORAに入会し運動を継続している一例
2. -50代男性片肺に対しての運動療法-天理市相談室より紹介にて入会し運動を継続している一例

施設HP

高井病院
メディカルフィットネスSORA

Information③

第42回 JAETP学術集会 演題登録開始、展示募集中

演題登録

受付期間は
2023年7月31日 月 まで一般演題登録を開始しました。
日本臨床運動療法学会会員に限らず、演題をご登録頂けます。
全てオンラインで受け付けます。
皆様の演題応募、そして現地でのご発表をお待ちしております。

登録はWebから

企業展示募集

獨協医科大学関湊記念ホールロビーで展示募集中です

【お問い合わせ先】

第42回 日本臨床運動療法学会学術集会
運営事務局(株) プラントゥ・ジャパン内
東京都港区芝大門2-3-6 大門アーバニスト401
☎: 03-5470-4401 ✉: jaetp2023@nta.co.jp